

心理學者生理學者は、精神作用の最肝要なる機關たる腦髓の併かも其中の主要なる部分たる皮質の重量が、男女著るしき差があるといふことに於て、一致して居る様です。これが又主なる原因だと考へます。夫から其他身體上骨格筋肉等の組織の違なども、無論間接的原因であらうか存在します。

子どもの朝寢

巖手 凹 凸 子

「早起は健康長壽の基」などいつて、昔から一通りでなく朝起さを奨励しました。が、この頃はとかく心理學とか衛生學とかすべて理論的學術の進歩したためでありませう、朝早く起きるのは健康上から宜しくないとか、朝寢をすると長生さをするとか、随分朝寢については、かれこれ議論のあるよーになつてきました。が、無論わたくしは夫れについて可否するだけの能をもつて居りませぬ、併

しこの朝寢については世の青兎者は余ほど考へざるものであらうと思ひます、私などは今で朝寢の習慣がなほらんで、時としては朝寢どころでなく寢つゝけに晝寢となることがありませう、ともかく、私の考へでは小供の時から朝起さを勵ました方がよからうと思ひます。

なほ昔から朝起きの早い人にえらい人が多くでたなど、書物などにも載せてありますが、これにはいくらか理由のあることでありませう、現に故の中村博士は朝起きの早い人とおそい人との利害をくらべて、朝は早く起きるものであるとあつて戒められました。が、其の計算が如何にも面白い、先づ朝六時に起きる人と八時に起きる人をくらべて見ると、四十年のうちには、二万九千余時間といふ違ひがこれ、之を年になほして見ると、

三年と百二十六日あまりで、毎日八時間づゝの勉強時間とすれば積つて十年ほどになる、則ち六時に起きる人は八時に起きる人よりは、四十年のうち十年ばかり勉強時間を多く得られるといつてしぎりに博士は朝寝する人を誡められました、しかし、その中には病氣などをすることもありませんし、また過度な労働をした時などには、十分に眠りを取ることが必要でありますから、さうはつきりといくものではありますまいけれども、何しろ朝寝をするものはあらゆる點からよろしくないよーに自分には考へられます、して最も朝のおきられない時代は七八歳の前後で、學校へおこなうからといつて布團などをはがれた事もあつたよーに私などは感じて居ります、

また歸郷の折など家の小供についてもよく知つ

て居りますが、随分朝起きはつらいよーに見えます、ある時私の家に四五歳ぐらゐな近所の小供が五六人来て、例のことく無邪氣に遊んで居りますからそこへいつて子ども朝起きさの様子について尋ねますと、家庭がちがふので答へがいろいろです、中からは随分酷ひ起し方をされる小供もありましたが、またいつまでも寝かされて居る子どももありました、或はかかさず寝てもかくれて寝るといふ小どももありました、併し私になるほどと考へましたのは「おきよ」といふ子どもであります、この子どもははじめに「寝てもねてもねむたいの」といひましたから、私は、「そんなにねむたいなら二日なり三日なり残りをしくないほどねるがよからう」とからかひますと「寝てもよいけれどおっかさんにいつも言つてき

かされるから恥かしくて」と子どもながらも眞に恥かしさうに答へました、

さて其の言つてきかされるのは何で何故又恥かしいのであるといろいろ問ひましたが、發問法が當を得なかつたと見えてどうしても満足な答へを得なかつたのですが、この兒の母の「れきよ」を起す口調だけが知れたのです、

「あきよ」や、けふもお日さまが出なさいました
いつもいふよりに、お日さまは毎日く一日も
休まずに働いておいでなされるの、もしもお日さ
まか、お前のよりに朝寝をなすつたらそれこそ
大變なのよ、お米もとれなければ野菜も出來な
いし、その外なにもかもとれない、さうすると
食へることも飲むことも出來ないから死んでし
まはなければならぬ、さうすると紐をつくこ

ともできないし、面白く遊ぶことも出來ないの
ねほんとにあまり朝寝をすると、お日さまに對
しても恥かしいのね

いつもこの通り言ひさかせられるから朝寝はされ
ぬとこの兒はいつてをりました、

で私は前述べました通り心理學上からよいとか
衛生學上からわるいとかいふことは出來ませぬが
只小供をもつておいでのかたぐいの朝起さを勵ま
される上に少しも參考にならばと思ひまして、一
寸右の通り述べた次第でございます

Lost time is never found again.
失ひたる時は二度と得るゝこなし。